

# 電子書籍の登場による出版社への影響

～電子書籍の有効な使い方～

1130519 吉本 未希

高知工科大学マネジメント学部

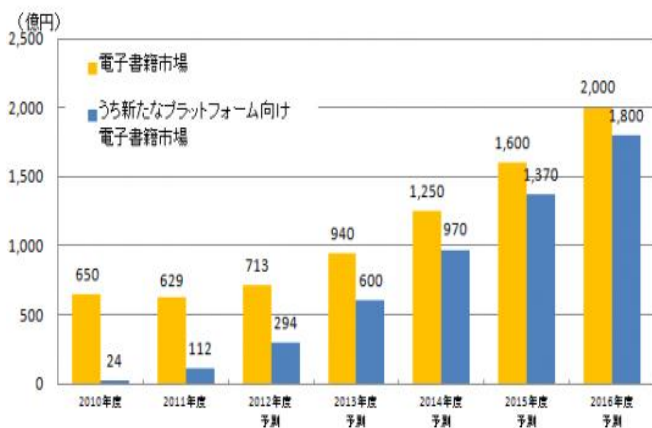
## 1. 概要

ネット社会が急速に進化を遂げている現代、読書の形も多様化してきている。電子書籍の登場により、2000年に4391社あった出版社が、2009年には3902社まで減少しているのである。教育現場において教科書を電子化にする動きも見られる。本研究では、このような背景の中で電子書籍と従来の紙の本が上手く共存できる使い方、これからの出版社の在り方を提案した。

## 2. 背景

近年、出版社は減少傾向にある。この背景には、スマートフォンの普及。また、スマートフォンと連動して使用出来る端末の普及により、電子書籍の市場が伸びてきた可能性が考えられる。

図 1 電子書籍市場



新たなプラットフォーム向け電子書籍市場に注目したい。2010年には24億円だった市場が翌年には112億円になっている。この年にiPadやKindleなどの端末、またはスマートフォンが私たちの生活に浸透してきた。つまり、これらの端末の普及と共に電子書籍の市場が大きくなっているのである。

スマートフォンや端末、どちらかを持っていればどこでもインターネットが楽しめる。すぐに情報が収集できる。本や雑誌を買ってまで情報を得る回数は減少するはずである。つまり、従来の本の販売に大きな影響があると考えられる。

出版社の減少を止めるには、出版社は本だけにこだわるのではなく電子書籍の出版も担っていく必要がある。

## 3. 目的

本研究は、電子書籍が登場することによりこれからの本はどうか。今後の出版社は電子書籍とどう向き合っていくべきかを提案する。

## 4. 研究方法

電子書籍と本の良さを分析した。電子書籍を利用するのに必要な端末についても調査した。高知東工業高校で取材を行い、教育現場での活用法を調査した。生徒と先生方にアンケートも行った。

## 5. 結果

出版社が減少傾向にあるのは、電子書籍の登場だけが原因でないことが明らかになった。以前から言われていた若者の活字離れやインターネットの普及も大きく関わっていることが分かった。インターネットを楽しめる環境が整えられ、パソコンを利用する時間が増えたことから、読書よりも夢中になれるものを見つけたと考えられる。

教育現場の活用では先生側からも生徒側からも電子版の教科書に賛成意見が多かった。工業高校ということもあり、専門の授業では立体的に図が表示出来たりすることから、授業の幅が広がり生徒の関心も高まるという意見が出た。一方で反対意見もあり、教科書に印刷された活字を追うのと画面に表示された活字を追うのでは、学習の情報が違ってくる。その為、脳が発達途中の高校生はやめておいた方がよいといった意見が述べられた。

## 6 対策と提案

本研究で分析をした、電子書籍と紙の本のメリット・デメリットより検討した。

### ・図書館の利用者を増やす

絵本までもが電子書籍になる時代、図書館というスペースは貴重なもの。図書館には歴史を感じられる本がたくさんある。本によって重みや表紙のデザイン、文字がすべて違う。幼い

頃に、たくさんの本棚からお気に入りの1冊を選び決定する経験は必要。自分で探して読んだ本は記憶に残るはずである。

#### ・電子書籍の有効な使い方

工業系の専門授業や数学などの授業中に図を示す場合など紙面で見ると、立体的な図を使い授業できるはずである。企業では、ものづくりの現場で有効となる。

### 7 今後の課題

近年、実験として他県の小学校や専門学校、大学では電子化した教科書で授業を行っている。しかし、小学生など幼いころから利用していった場合、知識量が違ってくる可能性がある。何歳から電子書籍を取り入れていくか今後の課題といえるだろう。

### 引用文献

- [1] 江澤隆志(2010)「電子書籍の基本からカラクリがわかる本」洋泉社
- [2]大原ケイ (2010) 電子書籍大国アメリカ アスキー新書
- [3]酒井 邦喜(2011) 脳を作る読書 実業之日本社
- [4]田代 真人(2010) 電子書籍元年 インプレスジャパン
- [5]林 信行 (2010) iPad ショック 日経 BP 社

Amazon 公式 HP [http://www.amazon.co.jp/ref=gno\\_logo](http://www.amazon.co.jp/ref=gno_logo)

Apple 公式 HP <http://store.apple.com/jp>

「幼児教育アプリワオっちシリーズ」HP  
<http://waochi.wao.ne.jp/>

Garbagenews.com <http://www.garbagenews.net/>

Wikipedia

<http://translate.google.co.jp/translate?hl=ja&langpair=en%7Cja&u=http://en.wikipedia.org/wiki/E-book>

ひろぶろぐ <http://hirofun.com/>